

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400097		
法人名	社会福祉法人 宏友会		
事業所名	グループホーム風車の家 Bユニット		
所在地	札幌市西区宮の沢490番地87		
自己評価作成日	平成22年5月24日～7月31日	評価結果市町村受理日	平成22年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400097&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成22年8月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議で、地域をテーマとした話し合いを何度か実施しており、それを踏まえ理念の追加を検討している。又、理念は職員全員で共有し、各自の持ち味を活かしながら実践に繋げていく努力はしている。更に、理念の大切さについて話し合いたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者は地域住民の一員という意識を持ち、町内の催しには積極的に参加したり、ボランティア受入れや運営推進会議において、地域との関わりを大切にしている。今後も、様々な交流が図れるように継続していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族へ発行している季刊新聞や運営推進会議において、認知症などの知識や情報を発信している。事業所として地域に向けて何が出来るかという事について意識しながら、運営推進会議での話し合いを進めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回施設の行事報告と、その時に合ったテーマを決めて行ない、会議の内容は議事録でいつでも閲覧できると共に、定期的に行なわれる職員会議で発表し、サービスの向上に活かす努力をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、市と区が主催する会議には積極的に参加していると共に、日頃から市の担当者には相談をよくしている。また、市から委託された実習生の受入れを行なっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、防犯上夜間のみ行なっているが、日中は自由に入出りできる状態である。入居者の外出時には、本人の負担にならないよう配慮しながら付き添いを行なうようにしている。又、職員は、身体拘束に関する施設内外の研修には積極的に参加するようにし、その理解に前向きに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、施設内外の研修には積極的に参加し、運営推進会議でもそのテーマを取り上げ、日々虐待に対する意識を持ちながら支援を行なっている。。また、虐待のグレーゾーンの支援のあり方にも力を入れて徹底していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に、他ユニットで日常生活自立支援事業を活用している入居者がいる。しかし、十分に理解できない部分もある為、今後必要に応じて学ぶ機会を設けると共に、自己学習にも取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には、出来る限り事前に施設を見学してもらい、施設の雰囲気を知ってもらってから契約してもらうようにしている。契約締結時・解約時は十分に話し合いの場を設け不安などが無い状態であるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ケアプラン作成時、アンケートにおいて要望等を知る機会がある。普段から、家族が意見を言い易い様な関係作りを意識している。挙げた要望等は真摯に受け止め、会議において職員間で共有し運営に反映出来るように検討している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において、管理者と職員は意見交換をする機会があると共に、日常生活の会話からも職員の意見等をくみ取るようにしている。管理者は、職員の意見等を法人の会議において伝達している。より多くの意見交換が出来るような工夫をしていきたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な昇給、勤務年数に応じた表彰、勤務状況の見直し、キャリアパス制度を来年度導入に向けて整備中、など職場環境の整備はされている。管理者は、職員に年度毎の目標を立ててもらい、目標共有しながら、一人ひとりが自己啓発できるような工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を中心に施設内外の研修計画が立てられており、研修の機会は十分に確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会主催の職員勉強会に参加したり、他の外部研修の機会は多くある。また、実習生の実入れも行なっている為、同業者と交流する機会はある程度確保されている。今後更なるネットワーク作りをしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者には出来る限り事前に施設を見学してもらい十分に話し合いの場も設けてから契約に至っている。入居前の生活等の情報も関係者と連絡を密にとり、職員は予め本人の情報を十分に把握してから本人を迎えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や見学の際には、家族にも安心感とを持ってもらえる様な対応に配慮して情報提供を行なうとともに、どのような事でも家族が気軽に話してもらえるような雰囲気作りに努めている。入居前には十分に話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には十分に話し合いの場を設けている。入居前の情報を元に、本人にとって「今」何が最善かという事について、専門職として持っている知識を活用しながら、家族も含めた関係者と話し合いを重ねている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも挙げている様に、入居者と職員は家族として想いを共有できる様に、入居者の話を傾聴したり日々の生活を送る中でその関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	幾つかの行事は家族も参加する他に、受診は家族対応としており、一方的な関係にならない様に配慮している。入居者の現状を常々伝え相談し合う事で、情報の共有と家族との関係作りに努めている。中には、入居者と過ごす時間が少ない家族もいるが、こちらの触発により、より多くの時間を共有でき		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、電話、手紙、面会などは自由で、関係を継続し易い状態にはしている。センター方式の導入により情報量が増えたこともあり、今後は本人や家族と共に、馴染みの人や場所の関係継続支援によりつなげていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係作りは意識をしていて、主に家事を通じて入居者同士が助けあう場があるが、中には孤立しがちな入居者もいる。個々の活躍できる場や趣味を通じて入居者同士の関係作りを支援していくと共に、入居者の関係作り重要性について職員間で話したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であってもいつでも相談や来園を受け付ける旨は家族に伝えている。例は少ないものの、実際に来園される家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に想いを表す事が困難な入居者の想いの汲み取りには意識をして、日常生活の中での言動から想いを汲み取ることが出来るように努力している。今後も、積極的に想いの把握に力を入れたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年度からセンター方式を活用し、より多くの情報を得ることが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用したケース記録用紙に入居者個々の毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。今後は、日々の生活の中からもっと能力の把握が出来るように努力したい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の活用により、より多くの情報を家族と共有できるようになった。しかし、入居者毎に割り当てられた担当間での情報の共有、意見交換は十分とは言えず、今後活発な意見交換が出来るように努力を重ねたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を活用したケース記録用紙に入居者個々の毎日の様子を記入することで職員間の情報を共有し、日々の実践やケアプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の特養で開催される趣味的活動に参加したり、在宅部門の職員による体操の時間を設けたりしている。又、法人内の他部署と連携をとりながら、入居者の現状にあった居場所提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の催しに参加したり、消防職員を招いた避難訓練を実施している。今後は、SOSネットを活用するなどして、安全面には更に力を入れていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には主治医や救急搬送時の希望を確認し、その関係を継続できるようにしている。また、内科医と歯科医の協力病院があるので、必要に応じて往診を受けることが可能である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが、施設内研修や新人研修で医療知識を教わっている。入居者の事は、主治医と常々相談しながら適切な受診が受けられるように協働している。協力医の定期往診時には、事前に入居者の様子をFAXでお知らせしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護添書を提供し、入居者が安心して入院生活を送る事が出来るよう、また大きな状態変化が無い様に工夫している。入院中は病院と密に連絡を取り合い、早期退院や退院後の生活について相談している。情報交換時には病院関係者との関係作りも意識をしながら行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の、事業所で出来る範囲については契約時に必ず家族に説明をし同意を得る。住替え時には早い段階から家族との話し合いの場を多く持ち、多くの情報の共有をすると共に、本人にとって最善の場所やタイミングについて相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力に職員個々の差はあるが、施設内研修や消防署職員による救急対応の講義の実施、マニュアルの整備により実践力を身につける努力はしている。。今後は定期的な訓練の場を設け更に実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備いつでも確認できる状態にある。避難訓練は定期的に行っており、近隣の協力体制も見直したうえで、今年度より訓練の回数を増やしている。今年度の訓練は、実際に近隣の人も交えて行う予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であるという意識を忘れずに、プライバシーを損なわないように配慮している。記録などの個人情報の取り扱いを徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者の想いを汲み取る努力をし、家族の協力も得ながらその実現に向けて工夫をしている。自発的な活動の支援が不足しているので、今後は特に力を入れたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずは本人がどう生活したいのかという本人の視点を大切に考え、その中で入居者個々のペースを重要視した生活支援を心掛けたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容時は本人の希望を確認する。外出時には化粧やおしゃれ着を勧めたり、特に女性には身だしなみをほめる事を意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の能力に合った食事の準備等の支援を行なっているが、入居者の偏りがある為、まずは、職員間で、食事は「生きていく上で食事は不可欠」で自分達が食べる物は自分達で獲得し調理をする、という意識を共有したい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作りを業者に依頼し必要なカロリーを摂取している。食事量は全員毎食後、水分量は必要に応じてチェックする。糖尿病を患っている人に対してはおやつ量も考慮しながら、本人の楽しみを減らさないような支援を配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合った口腔ケアを歯科医と協力しながら行っている。口腔ケアの重要性について学ぶ機会を増やし、更に力を入れていきたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェックを行ない、それをもとに個々に合わせた排泄支援を行なっている。本人が自信や感覚を失わないように、自力排泄支援と、必要最低限のパットの使用に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて排泄チェックを行ない、それをもとに個々に合わせた排泄支援を行なっている。乳製品の摂取や運動などで自然排便を促し、医師とも協力しながら服薬に頼りすぎないように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表をもとに入浴の声掛けを行なうが、本人の意向に沿わなければ無理強いせず、その理由に配慮しながら支援を行なう。今後は、もっと積極的に入居者の入浴の希望を引きだす工夫をしていきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の本人の活動量と室温などの環境にも配慮し、夜間良眠できるようにしている。午睡も夜間の睡眠に影響ない程度に支援している。臥床のタイミングについても、今後本人の希望を更に追求していきたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があった場合は必ず職員間で情報を共有し、全員がその理解に努めている。医師とも協力しながら、出来るだけ服用に頼らない生活を目指している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に影響がない程度での嗜好品の摂取や歌を気兼ねなく唄えるような環境づくりを行ない等、楽しみが継続できるよう配慮して。入居者自ら自分の仕事を見つけ働く事も多い。今後は、男性の活動についても更に探していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は施錠をせず自由に入出りができる状態にある。リスクや対応状況などを考慮しながら、出来るだけ本人の希望に添った外出支援を行なっている。又行事では、普段なかなか行く事が出来ない様な所への外出を意識し、家族や地域の人たちと協力しながら外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出の際に、本人の能力を勘案しながら本人が支払いが出来るように支援している。入居者がお金を使う大切さについて職員間で話し合い、今後も積極的にその場面を増やしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用や手紙のやり取りは自由である。自らその希望を言えない入居者へのアプローチにも力を入れ、関係の継続を支援していきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分や居室には、写真や季節に合った装飾品を飾り、話題づくりや回想のきっかけに役立てている。無駄な音や色にも常に気をつけ、入居者が混乱しないような配慮をしている。特にトイレの衛生には注意をして、入居者が心地よく使用できるように、こまめな点検を行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置を工夫することで、様々な小スペースを確保するようにしている。ただ、その事でそのスペースを特定の入居者が独占してしまう場合もある、という課題が見えてきた。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前・見学時には馴染みの家具の持込について説明すると共に、パンフレットにも記載している。家具類は全て持込可能で、入居後のリロケーションイメージを最小限に出来るように、本人・家族と相談しながら配置を決める。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字やマークなどの視覚に訴える工夫をし、入居者が自立できるような支援を行なっている。職員間で、自立した生活の重要性を再確認しあって更に工夫を重ねたい。		